

令和7年度 第1回京都市木の文化・森林政策推進本部会議（令和7年4月23日）
本部長（岡田副市長）指示

木の文化・森林政策推進本部の設置から4年経過した今、本会議の設置の目的、基本的な考え方は、林業振興の従来のやり方から脱却を図り、「スピード重視」、「柔軟に進化」、「成果を発信」するものであることを再確認したい。

また、「新しい公共」の理念に基づき、民間の知恵と力をお借りし、各区役所からの提案も積極的に取り入れ、地域特性を踏まえた施策展開を図ってほしい。

特に、令和6年度から、国の森林環境税の課税が始まった。この状況を追い風と捉え、国や府の制度、財源が活用できる今、「この機を逃せば、この先京都市の木文化、林業振興は立ち行かなくなる。」という気概のもと、取り組んでほしい。

さらに、「新京都戦略」のもと、「突き抜ける世界都市 京都」を実現に向け、森林の保全・活用・魅力発信などの取り組みが、農林業の成長産業化へ波及していくよう進めてもらいたい。

その上で、皆さんに2点お願いする。

1点目は、「挑戦」である。

現状を前提とすることなく、常に新しい視点、様々な観点から考えてほしい。その際には、林業振興の視点だけでなく、木の文化を発展・推進させる側の視点、森林の多面的機能の経済価値を高める視点からの政策立案など、様々な挑戦をしてほしい。

2点目は、「連携・混ざり合い」である。

部署の垣根を超えた連携の中で成果を上げることはもとより、市民、事業者など、多様な主体とも連携するとともに、幹事・管理職の皆さんには、若手職員の新しいアイデアや感性を表現・発言する環境を整えてもらいたい。

最後に、毎年、本会議でお伝えしているが、どうせ仕事をするなら、楽しく、前向きに、ということも忘れずにお願いしたい。